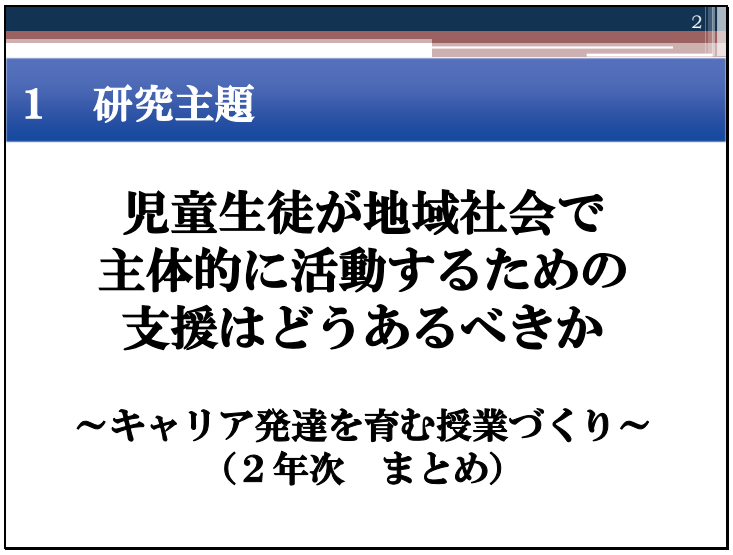
スライド 1

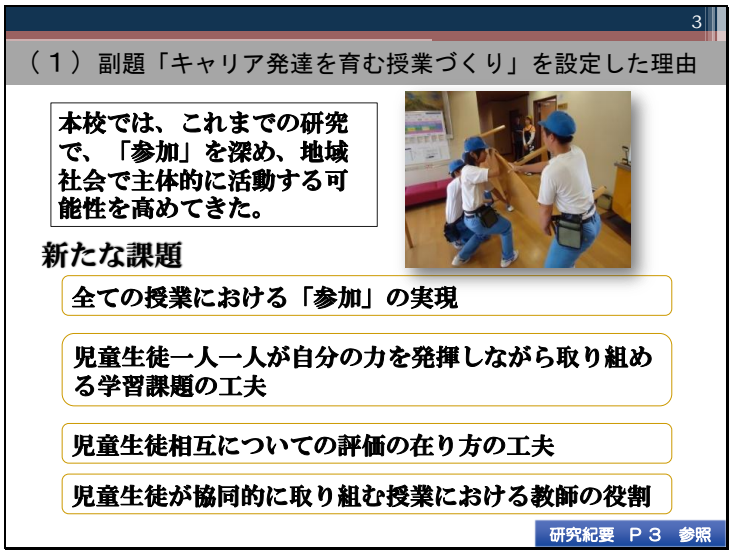
ただいまより研究概要報告を行います。

スライド 2



今年度の研究主題は
児童生徒が地域社会で主体的に
　活動するための支援はどうあるべきか
　　～キャリア発達を育む授業づくり～
としました。今年度は2年計画の２年次（まとめ）です。

スライド 3

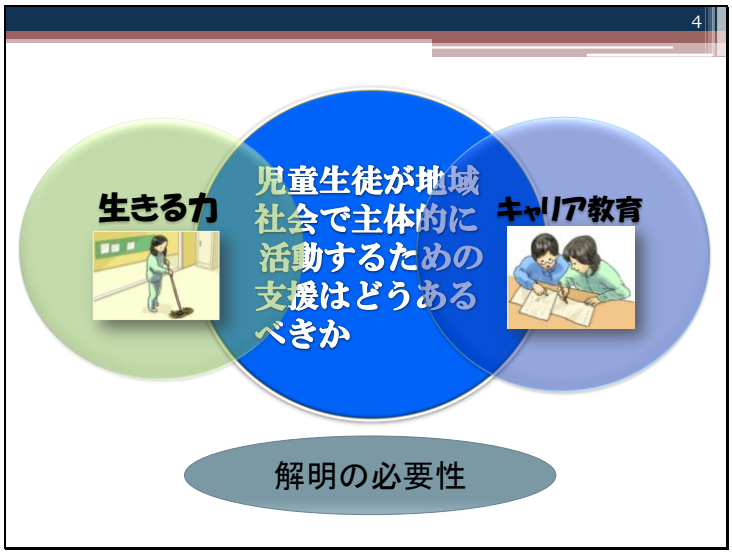


始めに、副題「キャリア発達を育む授業づくりを設定した理由についてです。
本校では、これまでの研究で「参加」を深め、地域社会で主体的に活動する可能性を高めてきました。
しかし、すべての授業における「参加」の実現については、まだ十分に達成されたとは言えません。
また、研究の中で、

＜児童生徒一人一人が自分の力を発揮しながら取り組める学習課題の工夫＞
＜児童生徒相互についての評価の在り方の工夫＞
＜児童生徒が協同的に取り組む授業における教師の役割＞

このような新たな課題も見えてきました。

スライド 4

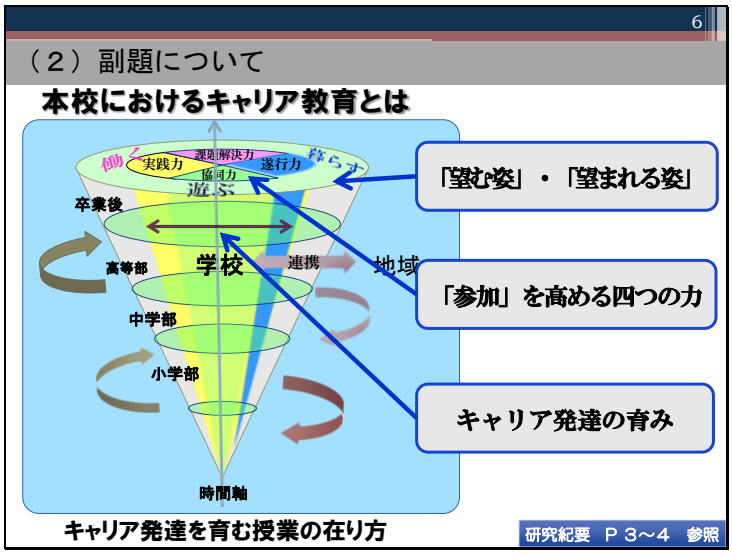


そこで、平成23年度から引き続き同じ研究主題を設定しました。
平成23年度4月から全面実施された新学習指導要領の理念である
「生きる力」を育むこと、また推進が強く求められている、
キャリア教育にも合致したものであり、
ますます解明の必要性が高まっていると考えるからです。

スライド 5

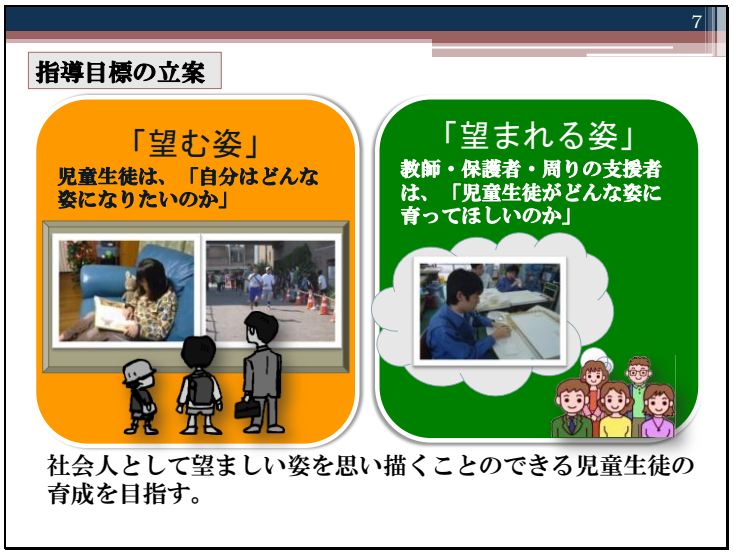
さらに、
キャリア教育のフィルターを通して、これまでの本校の取組を見直すことで、
キャリア発達が育まれ、生活の質が向上し、児童生徒の将来の社会参加の可能性が広がると考え、
平成23年度からの研究では、副題を「キャリア発達を育む授業づくり」とし、
キャリア教育の視点を取り入れた授業づくりに取り組むことにしました。

スライド 6



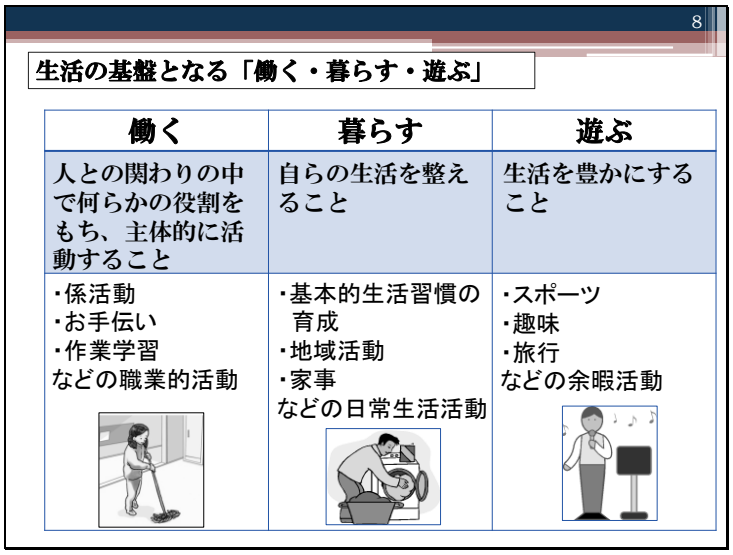
次に副題についてです。
本校のキャリア教育の捉えを
キャリア発達を育む授業の在り方の図から説明します。
本校におけるキャリア教育は
①「望む姿」・「望まれる姿」を目指し
②「参加」を高める四つの力を養い
③キャリア発達を育む
ことと考えます。
次に、①　望む姿・望まれる姿について、指導目標の立案から、説明します。

スライド 7



まず、
児童生徒は、「自分は、どんな姿になりたいのか。」また、
教師と保護者は、「どんな姿に育ってほしいのか。」を考えます。
児童生徒が、なりたい姿を思い描き、その夢に向かって前向きに取り組むためには
「本人が望む姿」を大切にしなければいけません。
しかし、同時に社会の一員として生き生きと生活するためには、
「周りから望まれる姿」を知ることもまた大切であると考えています。
「望む姿」「望まれる姿」より、社会人として望ましい姿を思い描くことのできる児童生徒の育成を目指します。

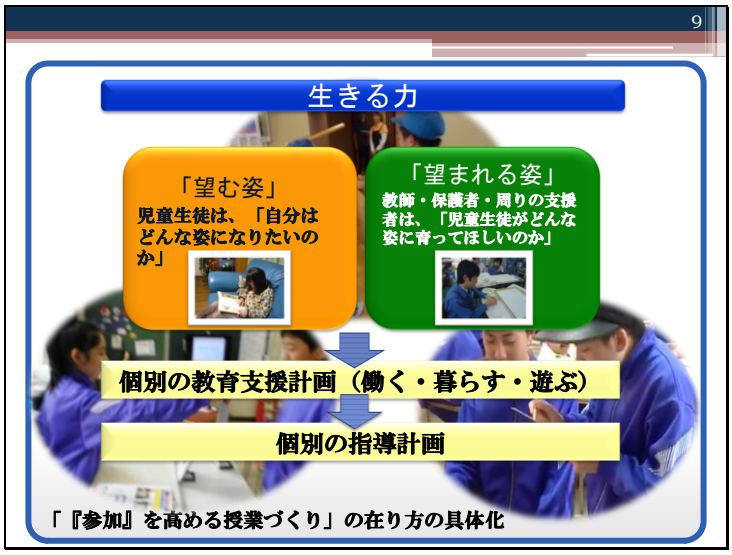
スライド 8



本校ではこれまでに、地域社会で児童生徒が主体的に活動するために、生活の基盤となる
「働く・暮らす・遊ぶ」ことに焦点を当てて、個別の教育支援計画を作成してきました。

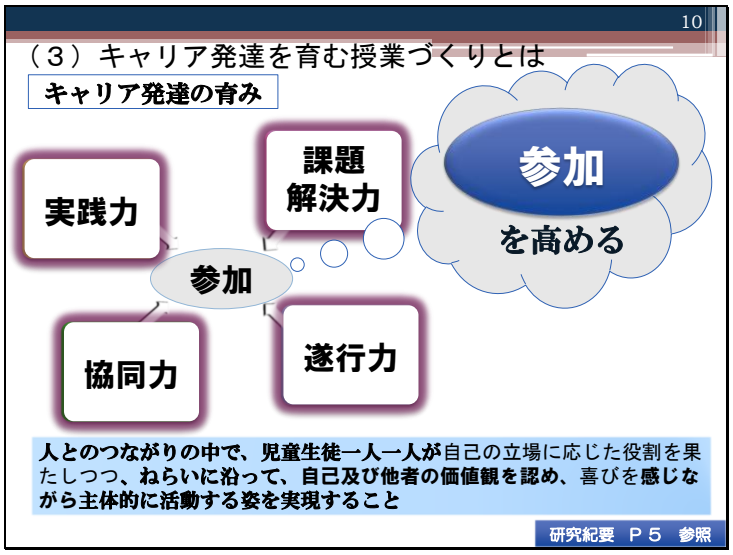
働くとは、人との関わりの中で何らかの役割をもち、主体的に活動すること、
暮らすとは、自らの生活を整えること、
遊ぶとは、生活を豊かにすることを指します。

スライド 9



これらのことは、
新学習指導要領の理念である
「生きる力」を身に付けることと大きく関連しており、
また、キャリア教育を取り入れる上で重要な視点であると考えられます。
このように、望む姿、望まれる姿を目指し、「働く・暮らす・遊ぶ」の3つの柱を基に、
個別の教育支援計画や個別の指導計画と関連させながら
「参加」を高める授業づくりの在り方を具体化します。

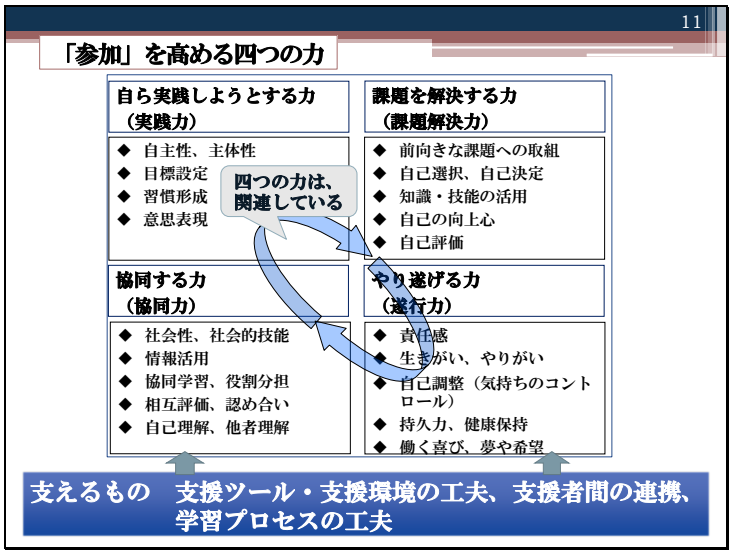
スライド 10



次に、本校が目指す、キャリア発達を育む授業づくりについて説明します。
これまでの本校の取組の中で、最も大切にしてきたものは、
「参加」の視点です。

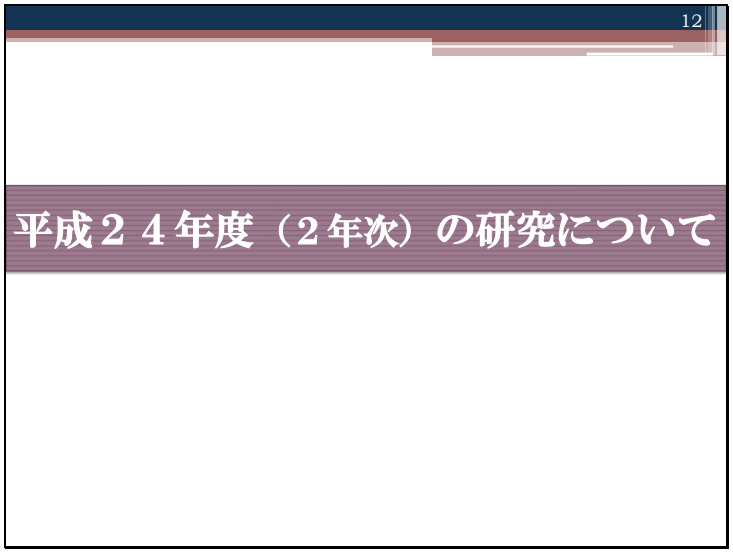
この参加を高めることで、キャリア発達が育まれると考えます。
「キャリア教育における『参加』を高める」を
人とのつながりの中で、児童生徒一人一人が自己の立場に応じた役割を果たしつつ、
ねらいに沿って、自己及び他者の価値観を認め、喜びを感じながら、主体的に活動する姿を実現すること
と考えています。
そして、この「参加」を高めるために、必要な力として、本校の過去の研究を基に
4つの力を考えました。

スライド 11



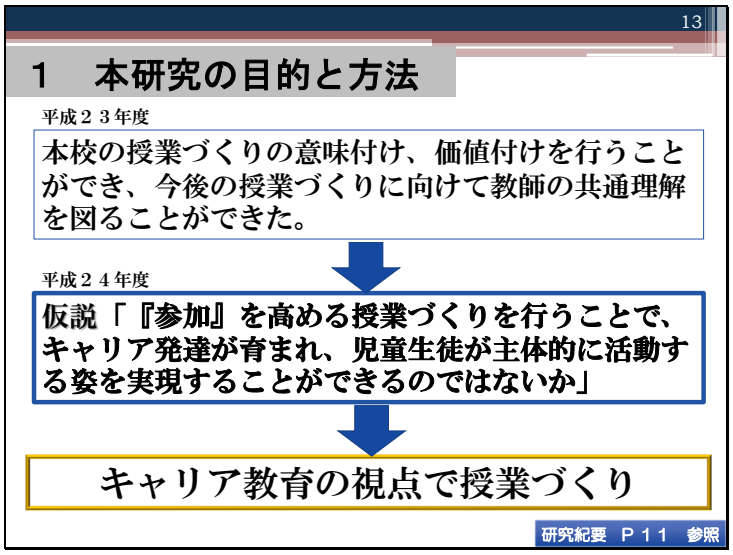
本校で考える「参加」を高める4つの力とは、
実践力、課題解決力、協同力、遂行力の4つです。
具体的には、・実践力とは、自主性・主体性、目標設定などを示します。
・課題解決力とは、前向きな課題への取組、自己選択・自己決定などを示します。
・協同力とは、社会性・社会的技能、情報活用などを示します。
・遂行力とは、責任感、生きがい、やりがいなどを示します。
また、これら4つの力を支えるものとして、これまでの研究で取り組んできた、
支援ツール・支援環境の工夫、支援者間の連携、学習プロセスの工夫があります。

スライド 12



それでは、平成24年度（2年次）の研究について
です。

スライド 13

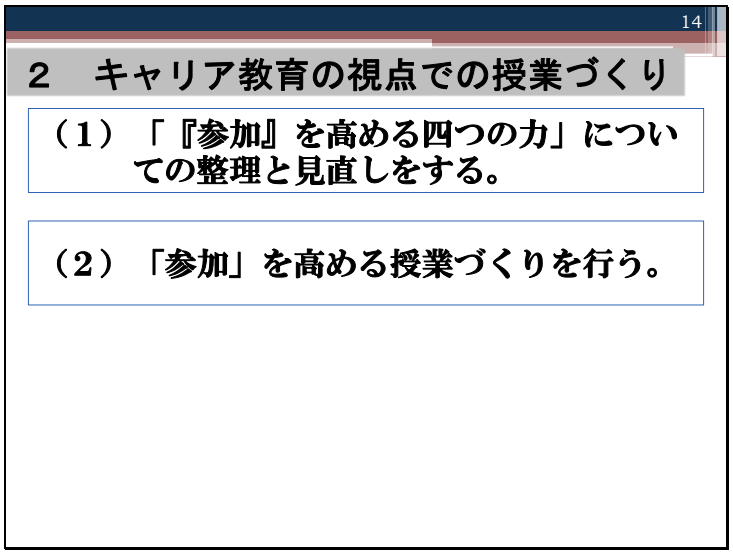


１　本研究の目的と方法です。

平成23年度の研究では、これまでの本校の取組を整理することで、
本校の授業づくりの意味付け、価値付けを行うことができ、今後の授業づくりに向けて教師の共通理解を図ることができました。

今年度の研究では、仮説「**『参加』を高める授業づくりを行うことで、キャリア発達が育まれ、児童生徒が主体的に活動する姿を実現することができるのではないか**」の検証のために
引き続き、キャリア教育の視点で授業づくりを行いました。

スライド 14

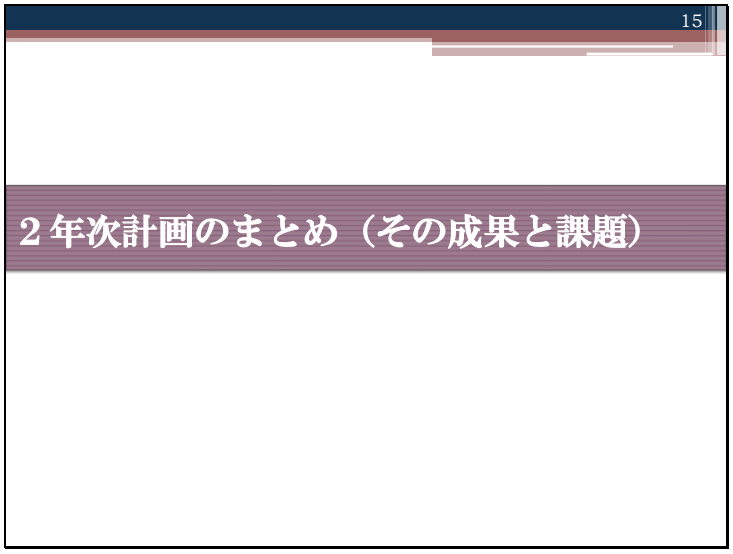


２　キャリア教育の視点での授業づくりでは、

（1）「参加」を高める四つの力についての整理と見直しと
（2）「参加」を高める授業づくり

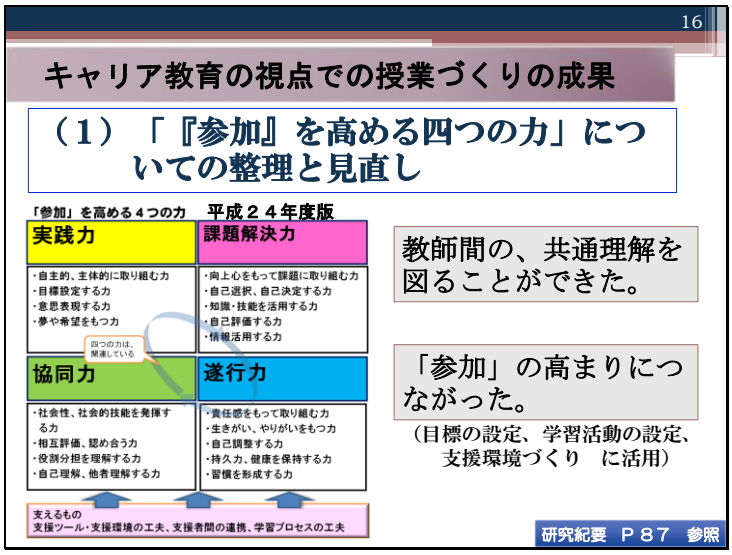
について研究しました。

スライド 15



２年次計画のまとめ（その成果と課題）です。

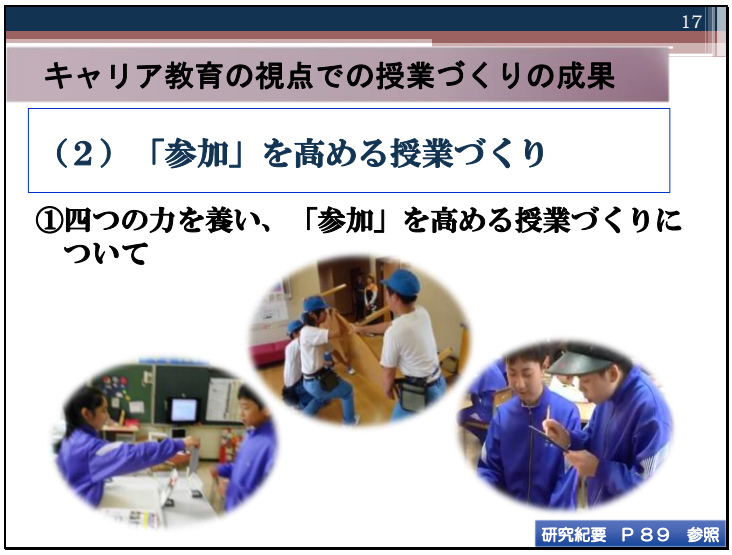
スライド 16



１　キャリア教育の視点での授業づくりの成果についてです。
（1）「『参加』を高める四つの力」についての整理と見直しでは、

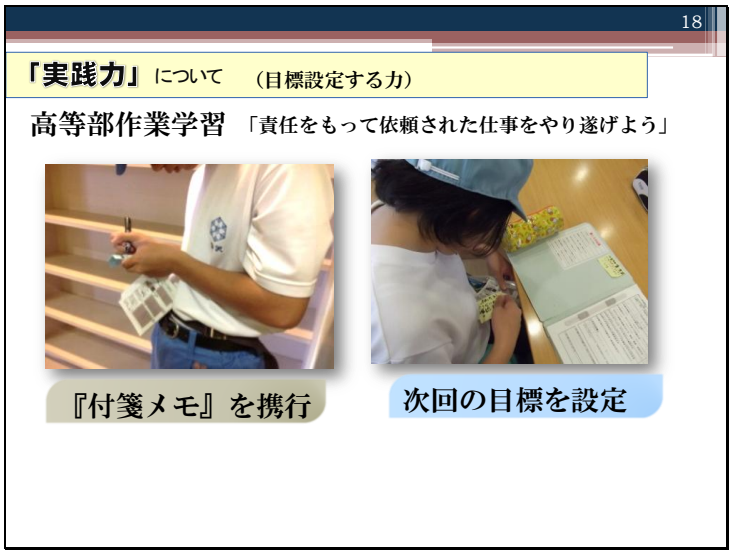
昨年度から今年度にかけて、「『参加』を高める四つの力」を検討していく過程で、
キャリア教育の考え方とこれまで本校で行ってきた授業づくりの研究の成果を整理し、
教師間の共通理解を図ることができました。
また、一つ一つの力の説明や下位項目の説明を付加し、
四つの力がより具体的に分かりやすくなったことで、授業づくりにおいて、目標の設定や学習活動の設定、
支援環境づくりなどに活用され、「参加」の高まりにつながりました。

スライド 17



（2）「参加」を高める授業づくり
①四つの力を養い、「参加」を高める授業づくりについて　です。
それぞれの力を伸ばす授業づくりの成果についてです。

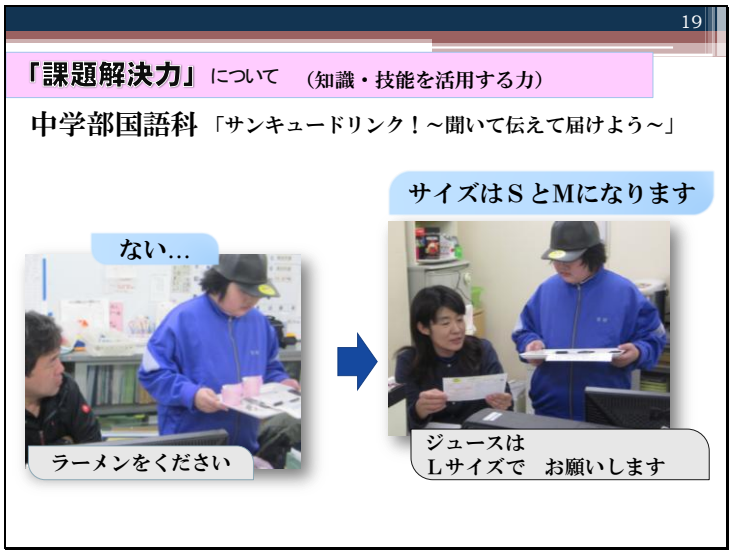
スライド 18



実践力（目標を設定する力）の例です。

高等部作業学習「責任を持って依頼された仕事をやり遂げよう」
では、『付箋メモ』を携行することで、
教師から指摘されたことや気付いたことなどを素早くその場で
書き留める姿が見られるようになりました。
また反省会ではその『付箋メモ』を振り返り、
次回の目標を設定する姿が見られるようになりました。

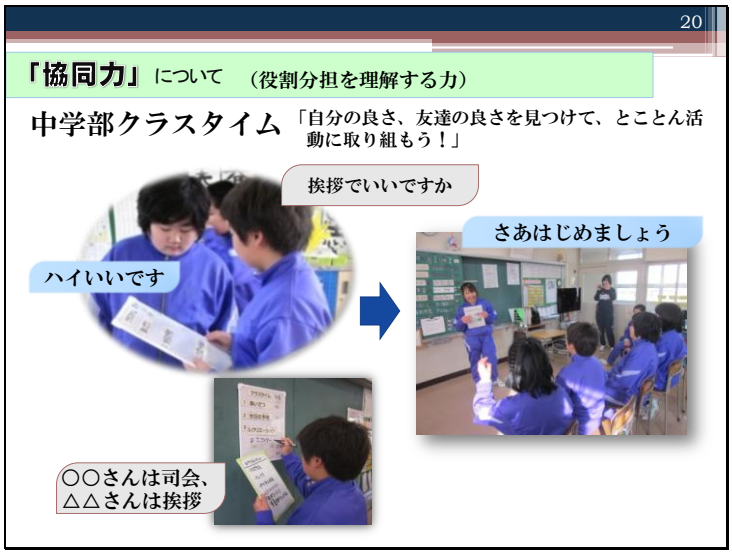
スライド 19



課題解決力（知識技能を活用する力）の例です。

中学部国語科サンキュードリンク！～聞いて伝えて届けよう～では、
「ラーメンをください」と
「お客様」の教師に意図的にメニューにない物の注文を伝えてもらったところ、
当初は「ない」とぶっきらぼうに答えていた生徒が、学習を続けていく間に、
「Ｌサイズでお願いします」と注文されたときに
「サイズはSとMになります」と臨機応変な応対をしながら、注文を正しく聞き取ることができるようになりました。

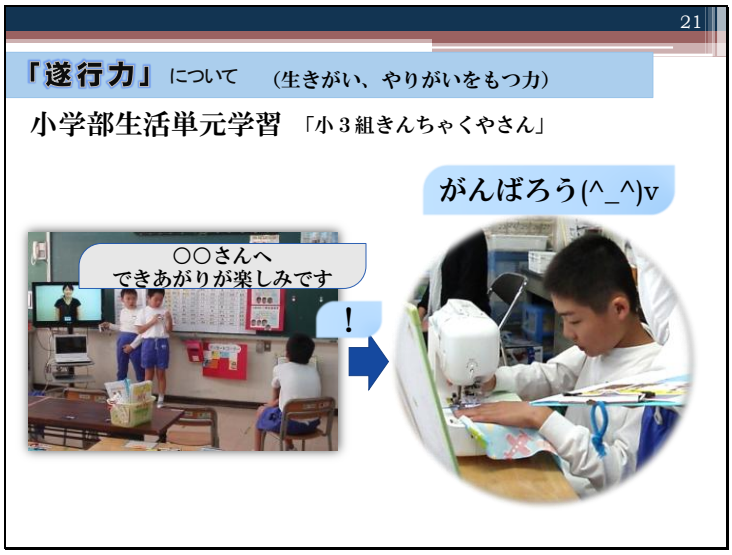
スライド 20



協同力（役割分担を理解する力）の例です。

中学部クラスタイム自分の良さ友達の良さを見つけて、とことん活動
　に取り組もう！では、
クラスタイムの担当者について、
自分や友達の得意なことを考慮したり、
友達の了承を得たりしながら決め、クラスタイムを進めている姿が見られました。

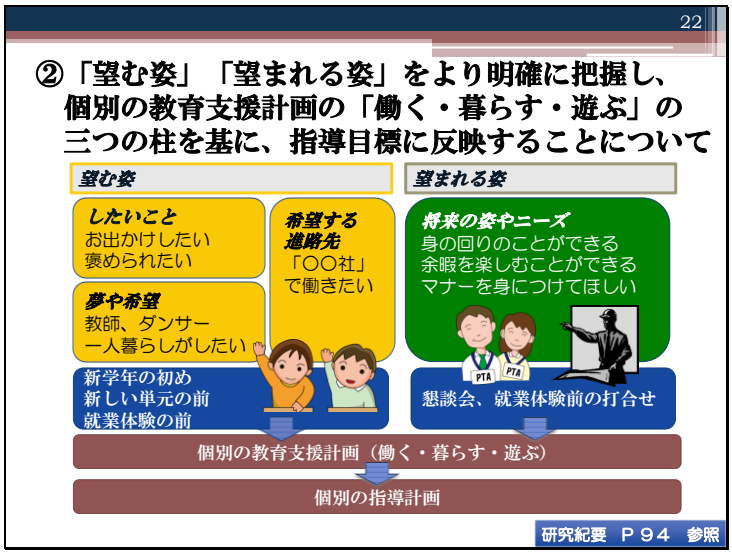
スライド 21



遂行力（生きがい、やりがいをもつ力）の例です。

小学部生活単元学習小3組きんちゃくやさんでは、プレゼント相手からのメッセージを手紙や動画で伝えることにしました。
そうすることで、決められた製作時間内、集中して取り組むようになりました。
後少しできんちゃく袋が仕上がりそうなときには「時間を延長して仕上げたい」と言う児童もいて、
早くきんちゃく袋を仕上げてプレゼントしたいという思いで製作活動に取り組む姿が見られました。

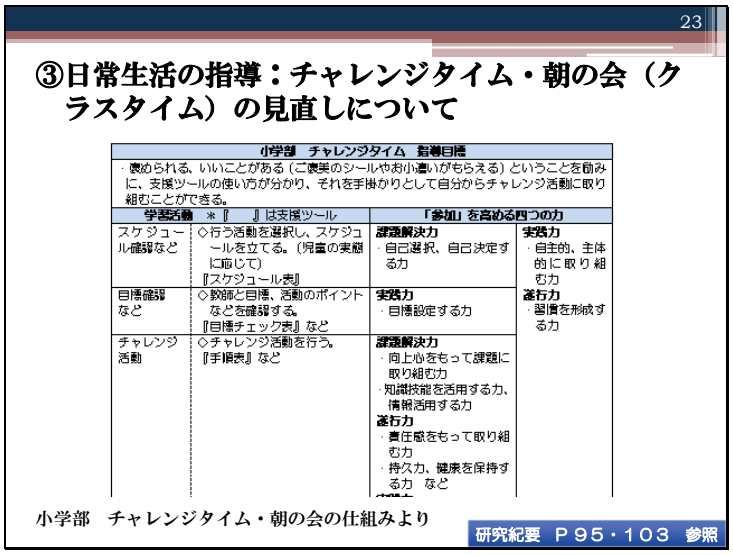
スライド 22



②「望む姿」「望まれる姿」をより明確に把握し、 個別の教育支援計画の「働く・暮らす・遊ぶ」の三つの柱を基に、指導目標に反映することについて です。

児童生徒から、新学年の初め、各授業における新しい単元の前、就業体験前などに「したいこと」「夢（なりたい職業）や希望」「希望する進路先」などを聞き出すことで「望む姿」を把握することができました。
また、保護者、就業体験先の支援者から懇談会、校外就業体験前の打合せなどで、児童生徒の将来の姿やニーズなどを聞き出すことで、「望まれる姿」をより適切に把握することができました。
さらに、「望む姿」「望まれる姿」から、児童生徒の将来に向けて必要な力を明確にし個別の教育支援計画の「働く・暮らす・遊ぶ」の三つの柱を基に、個別の指導計画の目標に反映することができました。

スライド 23

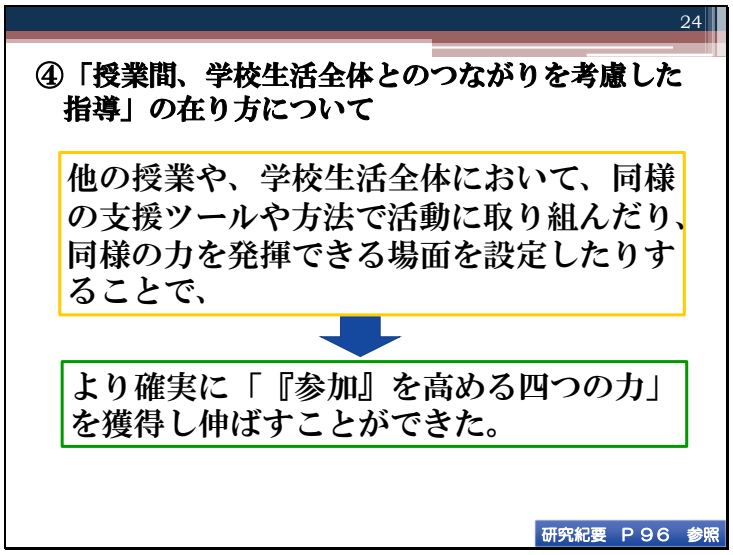


③日常生活の指導：チャレンジタイム・朝の会（クラスタイム）の見直しについてです。

各学部の学部研究を初め、授業研究会やキャリア教育座談会で、各活動の意味や価値を見直し、それぞれの活動で養うことができる四つの力を明らかにし、「チャレンジタイム・朝の会（クラスタイム）の仕組み」としてまとめることができました。
これらは、今後本校でチャレンジタイム・朝の会を行っていくにあたり、基本として行ければと考えています。

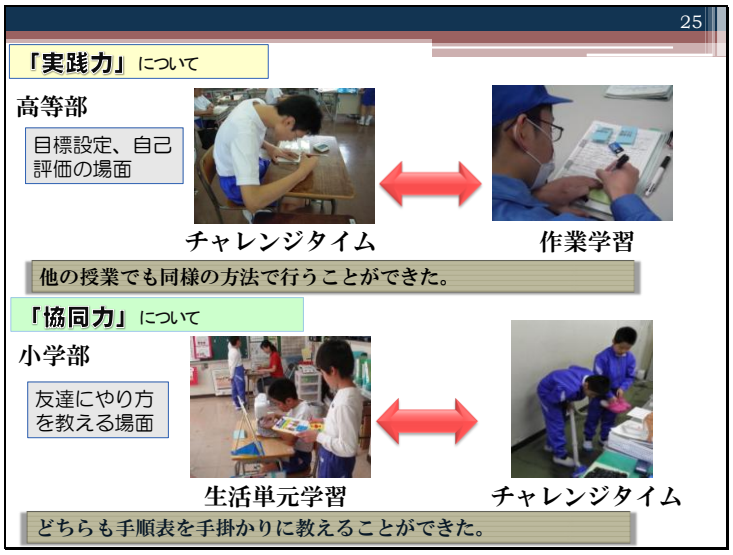
詳しくは、紀要103ページ資料Ｉをご覧ください。

スライド 24



④「授業間、学校生活全体とのつながりを考慮した指導」の在り方について
他の授業や、学校生活全体において、同様の支援ツールや方法で活動に取り組んだり、同様の力を発揮できる場面を設定したりすることで、
より確実に「『参加』を高める四つの力」を獲得し伸ばすことができました。
例として2つ紹介します。

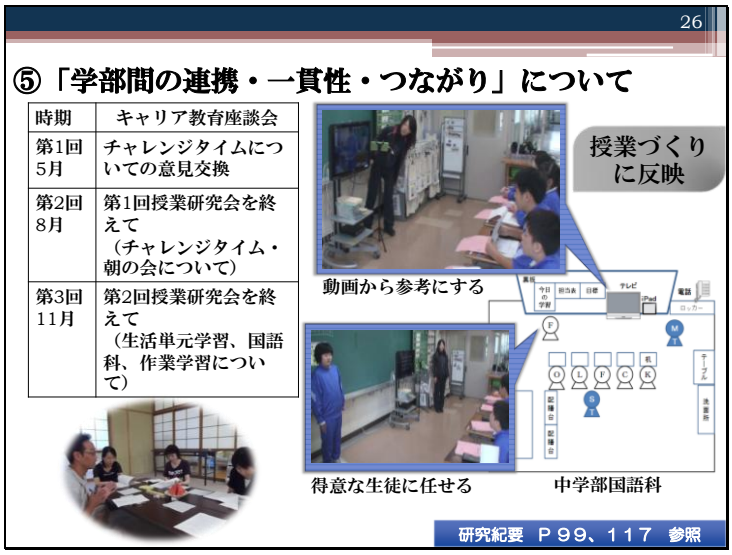
スライド 25



高等部では、目標設定、自己評価の場面で、作業学習でもチャレンジタイムと同様の方法で行ったところ次の目標を設定することができました。

小学部では、友達にやり方を教える場面で、生活単元学習でもチャレンジタイムのそうじも手順表を手掛かりにして次にやることや活動のポイントを言ったり、指さしをしたりして教えることができました。

スライド 26



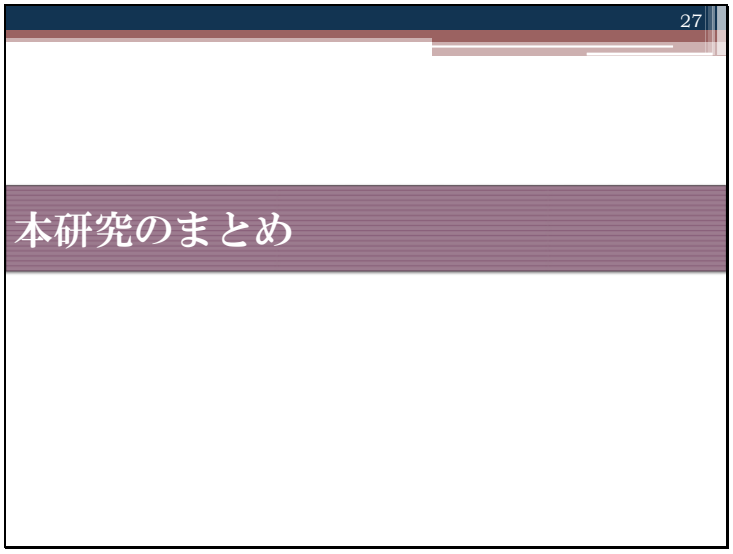
⑤「学部間の連携・一貫性・つながり」について　です。
授業研究会後に、小学部・中学部・高等部教師の縦割りグループで「キャリア教育座談会」を行うことで、
各学部間の連携や、一貫性について話し合い、授業研究に反映することができました。

例えば、国語科における協同力の育みについて「個人差が大きい集団の学び合いでは、お互いの得意なところを生かす」などが話し合われ、
中学部国語科では、
進行が得意な生徒に進行を任せたり、
撮影動画から、上手な応対の見本を他の生徒が参考にしたりするなど、

授業づくりに反映することができました。

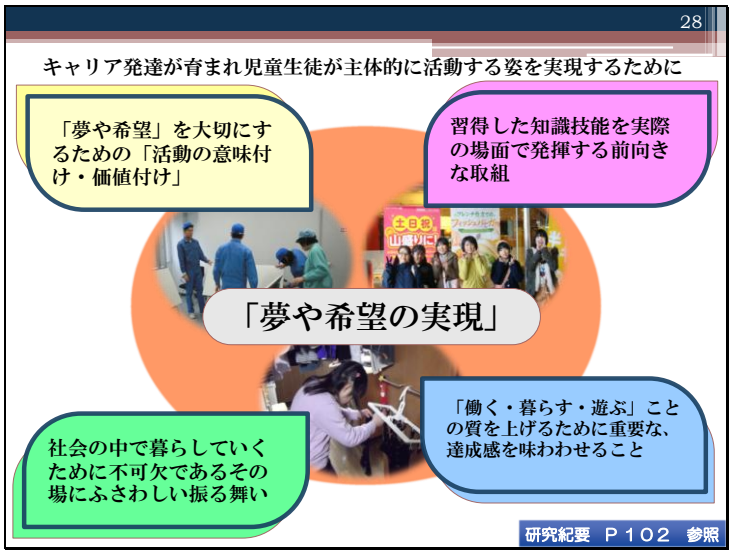
詳しくは紀要117ページ　資料Ⅱ　をご覧ください。

スライド 27



最後に本研究のまとめです。

スライド 28



この二年間で、キャリア発達が育まれ、児童生徒が主体的に活動する姿を実現するためには、
支援ツール、支援環境の工夫、支援者間の連携、学習プロセスを土台として「『参加』を高める四つの力」を獲得し、
伸ばすことが大切であることが明らかになりました。

具体的には、今までも授業づくりの中で行ってきた成果に加えて、
児童生徒の「夢や希望」を大切にするための「活動の意味付け・価値付け」、
習得した知識技能を実際の場面で発揮する前向きな取組、
「働く・暮らす・遊ぶ」ことの質を上げるために重要な、達成感を味わわせること、
社会の中で暮らしていくために不可欠であるその場にふさわしい振る舞いなどを
授業の中で意識的に取り込むことが重要であることが分かりました。

この研究主題は、学校教育の恒久的な課題であり、今後も追及されるべき課題を多く含んでいます。
本校がこれまで解明してきた内容に、キャリア発達を育む授業づくりを積み上げて、
児童生徒の「夢や希望の実現」のために今後、さらに検討していきたいとおもいます。

スライド 29

以上で研究概要報告を終わります。